
テスト？！パニック

芭瑠堵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テスト?!パニック

【Nコード】

N0586B

【作者名】

芭瑠堵

【あらすじ】

高校1年生の美香は、人生最大のピンチに陥る！？なんとテストの結果がP―点であら大変。単位が落ちちゃうかも?!そんな時、幼馴染の大紀が校門前で待っていて…。恋愛なんて、ゴマ粒程度!あったり、なかったり???ギャグ満載で展開される学園コメディ!。

私、田野部 美香は

人生最大の危機が訪れたのでした…。

「田野部…なんだ、これは？」

「私のテストです」

「そんなことは聞いていない。

…この点数は何だと聞いているんだ！…！」

ドガンー！！

今、まさに担任の和馬が雷を落とした。

それもそのはず、なんとって私のテストの点数は……。

「…まったく、どうやってたら0点などという数字がとれるのか
教えてもらいたいものだ！」

「あははー…先生なら特別タダで教えますよ？」

「怒っているのがわからないかね！…！」

「ひいい、すいません…！」

…今は冗談は通じないらしい。

まあ、あたりまえだけれどね…。

この後もこつてりと絞られた。

「はぁーやつと解放された」

長々、3時間弱はお説教をくらった。

あの先生は、そーいうの好きだからなあー。

……わかってます！自分が一番悪いくらいね！！
って誰に向かって言ってるんだろ…。

脱力しきつた足を引きひき、校門からだと予想外なものに衝突する。

「フガツ?!」

…ええ、そうですとも
表現ではなく、”本当に”衝突しましたとも…物でなく者にね…。

「つてなあ。ぶつかんなよ！」

「あたたッ…だ、大紀？」

「おう、そうだ…よっ！」

「あだっ?!」

ぶつかった時の痛みが去らないうちに今度は頭にきた。
大紀がチョップしたのである。

「なにすんのっ?!」

「お前が謝らないのがいけないんだよ」

「だからってチョップはないだろうに…グスン」

「あーはいはい、泣きまねしたって無駄ですよ?」

「ちっ、その手は利かないか…」

「…変な手を考えないで帰るぞ!」

「へーい、了解」

変なやり取りをしつつ…ってか
大紀との会話っていつもこんなかんじだけだね。
えっ? 漫才みたいだって??
そりゃー漫才やってるもの!

「してねえーつつつの!」

バシコッ

「痛いって! 心のアナウンスにまでツッコミしないでよ!」

「何がアナウンスだ。」

読者にボケてんじゃないやねーよ。ばーか、置いてくぞ」

「待ってくれやあゝ愛しの大ちゃん！」

「”愛し”がよけーだっ！！」

…まー、このやり取りはいったん終了して！！
話が進まないからね。

私たちは帰路に行く。

そして、よーやく真面目な話へ…。

「和馬に怒られるほどの点数って、お前いくつとったんだよ？」

「 $(199 + 1 + 381 + 19 - 300) \div 2 = 150$ 点だよ？」

「0点ねーへえ…って、どんだけの点数取ってるんだよ？！
いや、取れてねえんだよ！！」

「つか、計算速いよ！！
頑張って考えたのにいい」

「悪かったな、暗算は得意なんだよ！

…そんな事を考えるんだったら、真面目にテスト受けるよ？！
何考えてるんだ…お前は」

こ、怖いって大紀…。

お願いだから、そんな顔で近づかないでえー。

「だって、しょうがないもん！」

「はっ、お決まりの回答ずれてましたー何て言うなよな…」

「うわっすごい！？なんでわかるの？」

「既に決まり済みかよっ？！」

あははっ、ナイスツッコミやねー。

さすが私の相方や！！

「誰もお前の相方になつたつもりはない」

「イヤン、再度の心読み禁止」

「気色悪いからヤメレ……」

「分かつてる……自分でやってキモかった……うえ」

「だったら、やるなよ。」

そんな漫ざ……こほん、会話をしていた私たちであつた。

くだらない事をしている間に家についた。

「あーあー、もう着いちゃったのか。

時は早いもんだ……」

「しみじみ言うなよ……。半分……いや、99・99……以下略%以上は
お前のせいで時間

が経ったんだろうが……！」

呆れた風に言った大紀は、かなり疲労が溜まってるらしい。
鈍感な私でもわかるくらいに！

「でさ、お前どーするんだよ？」

こんな点数とったら単位、危ういだろ？」

「そのとおりでございます…」

「だったら、次の再テストで満点とる勢いがなくちゃな」

「うえっ？！そ、そんなの無理ってモンでしょう？旦那！！」

「（…無視）たくよー、そんな事じゃ本当に単位落として留年すんぞ？お前…」

「（はあう、無視された…）そーだけど…」

飯にも0点とった頭をなめるなよ！！

…ってえばれる事じゃないけどさーあーあー。

「…そんなの幼馴染としてみつともねーから、手伝ってやるよ？」

「えっ？！マジでっすか」

「ああ、本当だ。

なんだよ…嘘の方がいいかあ？」

「いえいえ、豚でもございませんよ？大紀様々♪」

「変換ミスすんなよ…」

「わわっ、本当だ!!」

「はぁー先が思いやられるぜ」

「え、でも待つて！変換ミスしたのは作者である芭瑠堵であって私じゃないんですけど?!?!」

「いーんだよ。」

それくらい、”馬鹿”だって言いたいんだろ？作者は」

「うつゝ痛い所を突付かれて、更にえぐりパンチして塩を塗りたくった感じのダメー」

ジがつ!？」

「わけわかんねえー表現使っうなって…」

「あれ、分からない？馬鹿だなー大紀は」

「…やっぱ、この話はなかったことにしよう…」

「あーあー!!まってくださいゝ冗談ですって本当に行かないでええ」

酷い仕打ちに、涙がチヨチヨぎれるううゝ。

「泣くな！鼻水たらすな汚い！！
わかったから、鼻かめよっ」

ぶちーんっ

大紀がくれたちり紙で鼻を盛大にかんだ。

「ぶはぁースッキリちた！」

「少しは女もった方がいいぞ？」

「ま、ええやなかー。
その方が面白と鯛」

「…はいはい、変な方言は慎め！そっち方面の人に失礼だろ？！
それと、同じ漢字ミスはやめい…」

「えー面白いのに…てかまた作者ミスを私のせいにするし…」

「ごちゃごちゃ言わない！
だーもう！話がだいぶズレただろうが！！」

確かにそーだねえー……何の話してたんだっけ？？？

「くそ、俺まで忘れただろ！！」

「だーかーらー、心読むなーお前は読心術者かぁーっ！」

「どーでもいい！そんな事…」。

そっだ！テストを手伝いつて話だよ！！

しょーがないからお前がテスト満点とれるくらいの実力がつくま

で面倒見てやる。

覚悟しろよ？」

「うー…その不適な笑みが怖いッス」

「いーか。」

絶対、嫌がろうとそうやると俺は決めたから
徹底的に仕込んでやる！！い・い・な？」

「は、はいい…」

「わかればいいんだよ。

じゃ、明日な！」

大紀の迫力に負けた私は、肯定の返事を出してしまった！？

あああゝ一生の不覚っ！！

そんな心情を読み取ってるや否や、ニコニコして帰っていった。

明日からどんな事が私に待ち構えているか……続く！！

えっ？…もう、これで終わり？！？！

ああ、短編ってやつですかあ？

なるほどーってこの先の展開はどうなるよ！

まさか、読者の想像におまかせてパターンですかい。

…まー、たぶん満点とってグットエンドだよね♪

切実にそうなる事を私は希望しますよ！！

あーはいよ、わかってる

私の努力次第ですね！！！！！！！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0586b/>

テスト?!パニック

2010年10月20日01時41分発行